



研究課題名 水都に関する歴史と環境の視点からの比較研究

法政大学・デザイン工学部・教授

じんないひでのぶ  
陣内 秀信

研究分野: 都市史、建築史

キーワード: 水都、類型学、サステナビリティ、文化的景観

【研究の背景・目的】

世界には、魅力的な水都が数多く存在する。海や川の水辺に立地し、舟運により経済を繁栄させ、美しい景観や華やかな文化を育んだ。だが、工業化を進め車中心の陸の時代となった20世紀には、水辺の空間が先ず犠牲になり、市民にとって遠い存在になった。歴史は巡って21世紀の今、都市の川や海を再び人々の手に取り戻す絶好のチャンスを迎えている。効率と機能性を追求しエネルギーを大量消費してきた陸の論理を乗り越え、海から、そして川から都市や地域を捉え直し、自然のもつ豊かさを環境形成の根幹に取り戻すための研究が求められている。

法政大学には、水の都市の再生を研究する「エコ地域デザイン研究所」の7年間にわたる研究成果があり、国際的なネットワークが形成されている。本研究はその蓄積を活かし、歴史と環境の視点を結合する独自性をさらに発展深化させながら、世界の水都を学際的かつ総合的に研究する。本来、豊かな水の環境と生活文化を歴史のなかで育んできた「東京」の水都としての特徴を、国際的な視点から比較解明することも大きな目的である。

【研究の方法】

異なる歴史観、環境観をもつ西の世界(欧米)と東の世界(アジア・日本)をグローバルな視点で比較研究する。従来、別の専門領域として扱われがちだった「歴史」と「環境」を結合し、水都の形成・変容・再生の動態をサステナビリティの視点から考察する。

対象としては、ヴェネツィア、蘇州、バンコク、アムステルダム、東京や大阪のような水網都市から、アマルフィ、ジェノヴァ、鞆のような入江の中世・近世都市。ロンドン、パリ、フィレンツェ、京都等の内陸河川沿いの都市。そしてニューヨーク、シドニー等の近代の港町など、都市類型に分けて調査研究し、水の機能・役割・意味が古代・中世から近代まで時代とともに変遷し、空間構造が変化した状況を動的に捉える。

古地図、文献史料、絵画史料を活用しつつ、現地フィールド調査を実施し、歴史的につくられた空間が現在の都市にいかに関与しているかを調べる点も大きな特徴である。水都の

再生という現代の課題にとってもそれが重要な方法になると考えている。

【期待される成果と意義】

従来、相互に関係が薄かった河川工学、水循環・水資源・生態学の分野と建築史・都市史、そして都市計画・都市づくり等の学問分野の間に水を媒介に相互の連携が生まれる。特に建築史・都市史に川、海からの視点を導入することにより、水の側から都市や地域を見る新たな方法が確立でき、同時に、水循環の仕組みを環境構成の基層から把握することで、サステナビリティの視点から都市を捉え直すことが可能になる。

世界における西と東の地域の比較考察を通じて、相互の知恵の交流を推進できる。特に、江戸東京等、日本の都市が本来はエコシティであったことを歴史と環境の結合によって実証することによって、水と密接に結びついた21世紀型の都市づくりの理念と手法の日本モデルを確立し、海外に発信することが期待される。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・法政大学エコ地域デザイン研究所編『水の郷 日野-農ある風景の価値とその継承』鹿島出版会、2010年。
- ・陣内秀信『イタリア海洋都市の精神』講談社、2008年。
- ・陣内秀信監修：出口清孝・森田 喬 ほか、エコロジーと歴史にもとづく地域デザイン、学芸出版社、2004年。
- ・H.Jinnai, *Tokyo: A Spatial Anthropology*, University of California Press, Berkeley, 1995.

【研究期間と研究経費】

平成23年度-27年度  
105,500千円

【ホームページ等】

<http://suito.ws.hosei.ac.jp>  
<http://eco-history.ws.hosei.ac.jp/>